Page2：発展論「旧網」

応用トピック：人類史におけるネットワークの系譜 SNSの前史を探る：人間はなぜつながりたがるのか

私たちは現在、SNSを「21世紀の革新的技術」として語ることが多くあります。<br>しかし、人間が情報を共有し、遠く離れた他者とつながろうとする欲求は、決して現代に始まったものではありません。<br>むしろ、SNSは人類が有史以前から築き続けてきた「人工的な情報ネットワーク」の最新形態に過ぎないのです。<br>

この応用トピックでは、Page3「系譜」で扱ったデジタル時代のSNS史の前に存在した、人類の長大なネットワーク構築史を振り返ります。<br>そうすることで、現代SNSの問題や可能性を、より深い歴史的文脈で理解することができるでしょう。<br>

**1.イントロダクション：つながりたい欲求の普遍性**

人間は本質的に社会的動物です。私たちは一人では生きていけず、常に他者との関係性の中で自分の存在を確認し、情報を交換し、協力して生活してきました。<br>

しかし、人間の社会は動物の群れとは決定的に異なる特徴があります。それは、直接的な接触がない相手とも、人工的な手段を使ってネットワークを築くことができるということです。この能力こそが、文明を発展させ、巨大な社会を形成することを可能にしてきたのです。<br>

SNSを単なるデジタル技術として捉えるのではなく、人類が古代から続けてきた「つながりの技術」の延長線上にあるものとして理解することで、現代の問題をより深く考察することができます。<br>

**2.人類史におけるネットワークの段階的変遷**

**口承・共同体ネットワーク（原始時代〜前近代）**

人類最初の情報ネットワークは、声と記憶に依存したものでした。狩猟採集社会では、生存に必要な情報―どこに食料があるか、どの動物が危険か、季節の変化をどう予測するか―は、すべて口承によって世代から世代へと受け継がれました。<br>

メディア理論家ウォルター・オング氏は、著書『声の文化と文字の文化』で、口承文化から文字文化への移行が人間の意識をどのように変化させたかを詳細に分析しています。オング氏によると、口承文化における情報伝達には以下の特徴がありました。<br>

身体性への依存：情報は人間の身体を通してのみ伝達可能 即座性と消失性：発言された瞬間に伝わり、同時に消失する 共同体への結束：共有された記憶が集団のアイデンティティを形成<br>

この特徴は、現代SNSの「ストーリーズ」機能と興味深い類似性を持っています。<br>Instagram やFacebookのストーリーズは24時間で自動削除され、リアルタイムの体験共有を重視します。これは、口承文化の「即座性と消失性」を、デジタル技術で再現したものと解釈することができます。<br>

また、神話、歌、儀式は、単なる娯楽ではなく「共有記憶装置」として機能していました。共同体のメンバーが同じ物語を共有することで、集団の結束と価値観の統一が図られていたのです。<br>

**文字と宗教ネットワーク（古代〜中世）**

人類史上最大の情報革命は、文字の発明でした。文字により、情報を時間と空間を超えて保存・伝達することが可能になりました。<br>

この段階で重要な役割を果たしたのは宗教的ネットワークです。聖書、仏典、コーラン、儒教の経典などは、単なる宗教文書ではなく、広範囲にわたる信徒コミュニティを結びつける「ネットワーク基盤」として機能しました。<br>

この時期の特徴は以下の通りです：

権威の集中：文字を読み書きできるのは限られた専門集団（聖職者、官僚、学者など） 情報の標準化：同じテキストが広範囲で共有されることで、共通の価値観が形成 階層的伝達：権威ある中心から周辺へと情報が一方向的に流れる。<br>

この構造は、現代SNSにおける「プラットフォーム企業の権威性」や「デジタル格差」の問題と共通点があります。Facebook やTwitter といった企業が巨大な力を持ち、ユーザーの情報環境をコントロールしている現状は、中世における教会や官僚機構の情報支配と構造的に類似しているのです。<br>

**印刷・出版ネットワーク（近世）**

1440年代のグーテンベルクによる活版印刷の発明は、情報伝達に革命的な変化をもたらしました。知識の大量複製が可能になり、これまで特権階級に限られていた情報へのアクセスが、一般市民にも開放されました。<br>

ベネディクト・アンダーソン氏は著書『想像の共同体』で、印刷資本主義が民族意識と近代国家の形成に果たした決定的役割を論じています。アンダーソン氏によると、印刷技術と資本主義の結合により、同じ言語で書かれた新聞や小説を読む人々の間に「想像の共同体」が形成されました。<br>

印刷革命の社会的影響は以下の通りです。<br>

情報拡散の加速化：手写本に比べて圧倒的に速い情報流通<br>

知識の民主化：一般市民も書籍を購入し、知識を得ることが可能に<br>

標準語の形成：印刷物により各地域の方言が統一され、国民言語が成立<br>

批判精神の拡大：宗教改革や科学革命は印刷物の力で広まった<br>

しかし同時に、この時期には現代のフェイクニュース問題の萌芽も見られました。印刷技術により、デマや扇動的な内容も広範囲に拡散されるようになったからです。宗教戦争や政治的対立において、印刷物がプロパガンダの手段として利用されることも頻繁にありました。<br>

日本では江戸時代に「瓦版」という独特の情報媒体が発達しました。瓦版は、庶民向けのニュースメディアとして機能し、災害情報、犯罪事件、心中事件などを扱いました。その内容は必ずしも正確ではなく、しばしば誇張や創作が混じっていましたが、庶民の情報需要を満たす重要な役割を果たしていました。<br>

**郵便・電信・電話・無線ネットワーク（近代）**

19世紀から20世紀初頭にかけて、通信技術は飛躍的な発展を遂げました。この時期に確立された技術は、現代SNSの直接的な前史となります。<br>

郵便制度の確立 近代郵便制度は、一般市民が全国規模でコミュニケーションを取ることを初めて可能にしました。日本では1871年に近代郵便制度が開始され、全国均一料金による手紙の送付が可能になりました。<br>

郵便の特徴： 一対一のプライベートコミュニケーション 非同期性（送信と受信に時間差がある） 物理的な記録の残存 趣味コミュニティの形成（文通仲間、ペンパル文化）

電信と電話の普及 1837年に実用化された電信技術、そして1876年に発明された電話は、距離を超えた即時コミュニケーションを可能にしました。<br>

これらの技術の革新性は以下の通りです。

即時性の実現：物理的な距離に関係なく瞬時に情報伝達<br>

同期性の確保：リアルタイムでの双方向コミュニケーション<br>

ビジネスの効率化：商取引や業務連絡の迅速化<br>

アマチュア無線の文化 20世紀初頭に普及したアマチュア無線は、現代SNSの重要な前史となります。無線通信により、国境を越えた個人間のコミュニケーションが可能になったからです。<br>

アマチュア無線の特徴

匿名性と仮名性：本名ではなくコールサインでのやりとり<br>

趣味コミュニティの形成：技術的興味を共有する愛好家のネットワーク<br>

グローバルな接続：世界各国との交信が可能<br>

自主的な運営：政府や企業に依存しない個人主体のネットワーク<br>

これらの特徴は、現代インターネットの「ハンドルネーム文化」「趣味クラスタ」「グローバル匿名ネットワーク」の直接的な起源となりました。<br>

**3.考察：ネットワークの普遍構造**

これまでの歴史を振り返ると、時代や技術は変わっても、人間の情報ネットワークには共通する構造があることがわかります。<br>

どの時代においても、人間は以下の三つの要素を組み合わせて情報ネットワークを構築してきました。<br>

媒介（メディア）

各時代の技術的制約の中で、情報を伝達するための手段 声→文字→印刷→電気信号→電波→デジタル信号<br>

権威（制御主体）

ネットワークの運営や情報の真正性を保証する主体 長老→聖職者→出版社→国家→通信会社→プラットフォーム企業<br>

つながりの形式

人々が結びつく具体的な方法や理由 血縁・地縁共同体→信徒集団→読者ネットワーク→愛好家コミュニティ→SNS上のフォロワー関係<br>

重要なのは、技術の進歩により媒介の手段は劇的に変化したものの、人間の根本的な欲求―つながりたい、情報を共有したい、承認されたいは本質的に変わっていないということです。<br>

**4.現代SNSとの連続性**

この歴史的視点から現代SNSを見ると、多くの「新しい問題」が実は古くからある課題の現代版であることがわかります。<br>

情報の真偽問題

古代：口承での誇張や歪曲<br>

中世：写本の写し間違いや意図的改変<br>

近世：印刷物によるデマ拡散<br>

現代：SNSのフェイクニュース<br>

権威と個人の対立

古代：長老による情報統制 vs 個人の体験<br>

中世：教会による解釈独占 vs 異端思想<br>

近世：検閲制度 vs 出版の自由<br>

現代：プラットフォーム企業の規制 vs 表現の自由<br>

コミュニティの分裂

古代：部族間の対立<br>

中世：宗派の分裂<br>

近世：印刷物による党派形成<br>

現代：エコーチェンバーと分極化<br>

つながりの過負荷

古代：共同体内での人間関係の複雑化<br>

近世：文通相手の増加による負担<br>

現代：SNS疲れと情報過多<br>

このように見ると、現代SNSの問題は技術的な新しさの中にありながら、人間社会の根本的な課題の延長線上にあることがわかります。<br>

**5.歴史から学ぶ教訓**

では、この長い歴史から、現代の私たちは何を学ぶことができるでしょうか。<br>

技術決定論への警戒 技術それ自体が社会を決定するのではなく、その技術をどのように使うかが重要です。印刷技術は宗教改革と科学革命を可能にしましたが、同時にプロパガンダの手段にもなりました。SNSも同様です。

権威の適正化の必要性 各時代において、情報ネットワークの健全性は、適切な権威の存在に依存してきました。しかし、権威が過度に集中すると自由が制限され、権威が不在だと無秩序が生じます。現代SNSにおいても、プラットフォーム企業の権力と個人の自由のバランスが重要な課題となっています。

多様性維持の重要性 歴史上、情報の多様性が失われた時代は、社会の停滞や紛争が起きやすくなりました。現代のフィルターバブル問題は、この古典的な課題の最新版と言えます。

教育とリテラシーの役割 各時代の情報革命において、新しいメディアを適切に利用するためのリテラシー教育が重要でした。現代においても、デジタル・リテラシーの向上が急務となっています。

**6.結論：連続性の中の革新**

SNSは確かに革新的な技術ですが、それは人類が長い間続けてきた「つながりの探求」の最新章に過ぎません。現代の問題の多くは、過去の類似した課題から学ぶことができます。

重要なのは、技術の新しさに眩惑されるのではなく、人間の根本的な欲求と社会の基本的な構造を理解することです。そうすることで、SNSをより賢く、より人間的に利用する道を見つけることができるでしょう。

私たちは、数万年にわたる人類のネットワーク構築の歴史の最新の担い手です。この長い歴史に敬意を払いながら、次の世代により良いつながりの技術を引き継いでいく責任があるのです。

口承から文字、印刷から電波、そしてデジタルへ―人間のつながりたい欲求は変わらずに、その手段だけが進化し続けています。SNSの未来も、この連続性の中で考えることで、より深い理解と適切な対処法を見つけることができるのです。

（参考文献）

ウォルター・J『声の文化と文字の文化：言葉の技術化』藤原書店

1991年 アンダーソン、ベネディクト『想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』NTT出版

2007年 アイゼンスタイン、エリザベス『印刷革命』みすず書房

1987年 日本郵便株式会社『郵便の歴史』日本郵便

2021年 総務省『電気通信の歴史』総務省

2020年 日本アマチュア無線連盟『アマチュア無線の歴史と文化』JARL、2019年